

唐崎夜雨 夜の雨に音をゆづりて夕風をよそに名立るからさきのまつ

比良暮雪 雲はる、比良の高根の夕暮は花のさかりに過るはるかな

堅田落雁 峯あまたこへて越路にまづちかきかた、になびき落る雁がね

矢橋歸帆 眞帆引て矢橋にかへるふねはいま打出の濱をあとの追かせ

三井晚鐘 おもふその曉ちぎる始ぞとまづきく三井の入あいのかね

〔近江名所圖會二〕近江八景湖水の絶景をみつむ、比良、堅田より三井、石山につらな、明應九年八月

十三日、近衛政家公尙通公父子、佐々木高頼の招請によりて、江州に掩留ありて、詠歌序など作れり、八景の題號此時より始る、詩歌數多有略之、或は永祿五年

○按ズルニ、琵琶湖ノ事ハ、湖篇ニ載ス、

〔延喜式主計十五〕凡左馬寮秣料米、近江國百五十斛、略、以彼寮請文、勘會抄帳、

〔延喜式兵部十八〕諸國器仗、略、近江國甲六領、横刀二十口、弓四十具、

〔延喜式木工三十四〕鍛冶戸、略、近江國四十四烟

雜載